

看護部

【看護部管理体制】

看護部長：野中 理佳(認定看護管理者)

副看護部長：村上 美香(認定看護管理者)、平山 恵(認定看護管理者)

看護師長：9名

副看護師長：16名

【看護部理念】

「患者さまの人権を尊重し、心あたかな看護を提供します」

【平成 29 年度 看護部目標】

スローガン「Go hand in hand ～手をつないで進む～」

1. 看護の質の向上を図る
 - ① 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
 - ② ケアの見える看護記録の充実
 - ③ 安心・安全で信頼される看護を実践する
2. 医療チームの一員として他部門と連携し、経営効果を考慮した看護が提供できる
 - ① 看護業務の改善と質の標準化
 - ② 入院前から効果的な退院支援を行い継続看護の充実を図る
 - ③ 院内連携の強化

【平成 29 年度の総括】

平成 29 年度(平成 30 年 3 月 31 日現在)の看護職員は常勤看護職員 174 名、非常勤職員 49 名(ケアワーカー24 名含む)、合計 223 名でした。常勤採用数は 18 名(内新卒 2 名)、常勤退職者数は 11 名で離職率 6.3%と前年度から 3.9 ポイント低下しました。

今年度看護部では、①中途採用者研修の開催②入院支援室開設に向けた準備③看護研究テーマ「研究倫理」について取り組みました。

①中途採用者研修をこれまでは行っていませんでしたが、当センターの概要を理解するとともに、離職防止や働き続けられる職場環境を整えるため、今年度から入職後に開催することとしました。研修会終了後受講者から、「看護部等について知ることができ良かった」という声が多く聞かれました。また、これまで他施設で経験された看護実践を共有し、当センターの業務改善に繋がる機会となり、改めて研修会の開催を始めた意義があったと考えます。今後も、これまでの経験を十分に活かし、当センターで働きたいと感じてもらえるように、今後も継続していきたいと思えます。

②入院支援室は、入院前に患者さまの身体的、精神的、社会的問題を含む基本情報を把握し、他職種で関わっていくことで、患者さまやご家族さまの不安を取り除くとともに病棟スタッフの負

担軽減を目的として開設予定です。当面は消化器内科に予定入院の患者さまからスタートし、少しずつ診療科の範囲を広げ患者さま・看護師の支援も広がることをできればと思います。

③毎年「看護研究」に取り組んでおり、院内外での研究発表を行っています。今年は「研究倫理」について、毎年アドバイザーとしてご指導いただいている熊本大学大学院生命科学研究部の前田ひとみ先生より「人を対象とする研究倫理」のテーマで講義していただき、研究倫理について学ぶことができました。以前から当センターでは、院外発表時は倫理委員会において審査をしますが、今年度より看護部において院内発表時の倫理審査として師長会で審査会を行うこととしました。完璧な審査会とはいきませんが、これにより研究倫理についての考えが深まっていると感じます。

【看護職員数】(平成 30 年 3 月 31 日現在)

| 職種 | 常勤 | 非常勤 | 合計 |
|--------|-------|------|-------|
| 保健師 ※ | 2 名 | 0 名 | 2 名 |
| 助産師 | 6 名 | 2 名 | 8 名 |
| 看護師 | 155 名 | 16 名 | 171 名 |
| 准看護師 | 11 名 | 7 名 | 18 名 |
| ケアワーカー | 0 名 | 24 名 | 24 名 |
| 合計 | 174 名 | 49 名 | 223 名 |

※保健師数は保健師としての業務をしている人数を表す

【年度別職員状況】

| | 27 年 | 28 年 | 29 年 |
|-----------|-------|----------|-------|
| 離職率 | 6.10% | 10.2% | 6.3% |
| 退職者(定年含む) | 11 名 | 19 名 | 11 名 |
| 年度別採用者 | 17 名 | 7 名+13 名 | 18 名 |
| 常勤看護師数 | 179 名 | 176 名 | 174 名 |

【年度別看護師平均年齢】

| | 27 年 | 28 年 | 29 年 |
|--------|--------|--------|--------|
| 看護師全体 | 38.9 歳 | 40.2 歳 | 40.2 歳 |
| 師長 | 52.4 歳 | 50.8 歳 | 50.8 歳 |
| 副師長 | 47.6 歳 | 48.9 歳 | 48.8 歳 |
| スタッフ | 37.0 歳 | 38.6 歳 | 38.5 歳 |
| 新採用者のみ | 32.5 歳 | 35.3 歳 | 35.2 歳 |

【看護体験受け入れ】

- ・高校生の 1 日看護体験(熊本県看護協会)
- ・鹿本高校生インターンシップ
- ・鹿本中学校生職場体験学習

【看護学生臨地実習受け入れ】

- ・鹿本医師会看護学校
- ・九州看護福祉大学
- ・九州中央リハビリテーション学院
- ・熊本保健科学大学
- ・城北高校(看護科、看護専攻科)
- ・玉名女子高校(看護学科、看護専攻科)

【看護の日の行事】

場 所：正面玄関ホールにて開催

内 容：血圧・血糖・身長・体重・体脂肪値の測定、栄養等の各種相談、介護用品の展示

参加者：64名

【認定看護師】

| | |
|---------------|----|
| 緩和ケア認定看護師 | 1名 |
| 感染管理認定看護師 | 1名 |
| がん化学療法看護認定看護師 | 2名 |
| 救急看護認定看護師 | 1名 |
| 認定看護管理者 | 3名 |

【資格取得者】

| | |
|--------------------|----|
| 認定看護管理者ファーストレベル修了者 | 8 |
| 認定看護管理者セカンドレベル修了者 | 5 |
| 認定看護管理者サードレベル修了者 | 3 |
| 日本糖尿病療養指導士 | 3 |
| 地域糖尿病療養指導士 | 3 |
| アドバンス助産師(ラダー レベルⅢ) | 3 |
| 消化器内視鏡技師 | 4 |
| 呼吸療法認定士 | 2 |
| 実習指導者講習会 | 18 |
| 訪問看護管理者研修 | 1 |
| 訪問看護師養成研修会 | 5 |
| ケアマネージャー | 7 |
| 退院支援看護師養成講習会 | 4 |
| ACLS プロバイダー | 4 |
| NCPR インストラクター | 1 |
| NCPR(Aコース) | 4 |
| NCPR(Bコース) | 6 |

部門別活動状況 【看護部】

| | |
|------------------------------|-------|
| 救急救命士 | 1 |
| 栄養サポートチーム専門療法士 | 1 |
| 禁煙サポーター | 3 |
| ストーマケアナース学習会 | 6 |
| 肝炎コーディネーター | 4 |
| ELNEC-J（指導者） | 16(1) |
| リンパ浮腫セラピスト | 1 |
| がん支援相談員 | 2 |
| 看護師に対する緩和ケア教育の指導者研修 | 1 |
| Psychological First Aid | 1 |
| がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(PEACE) | 19 |
| がんリハビリ | 1 |
| 人間ドック健診情報管理指導士 | 3 |
| ピンクリボンアドバイザー(中級) | 1 |
| ピンクリボンアドバイザー(初級) | 1 |

外 来

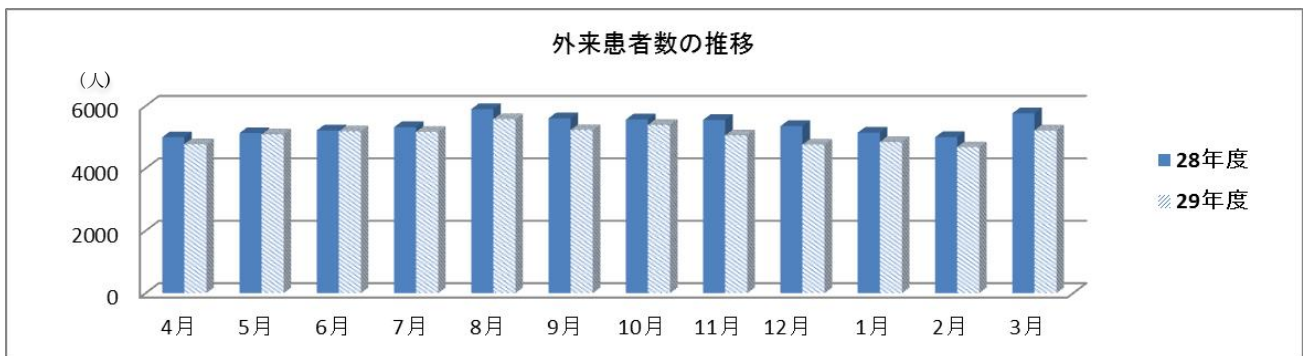
【外来の概要】

〈一般診療科〉

内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌・代謝内科、消化器内科、眼科、耳鼻咽喉科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、乳腺外科、総合診療科、救急外来

〈特殊・専門外来〉

禁煙外来、睡眠時無呼吸外来、小児科予防接種、糖尿病外来、ストーマ外来、女性外来、PEG 外来、両親学級、セカンドオピニオン外来、化学療法外来、緩和ケア外来



【平成 29 年総括】

外来患者総数は減少していましたが、一般診療科に併せて内視鏡・化学療法室でも治療が行われており、内視鏡検査や化学療法件数は増加しました。当院はがん診療連携拠点病院であるため、腫瘍内科や緩和ケア内科の患者数も増加しており、心臓カテーテル検査・治療、肝動脈化学塞栓術も行われ、看護師も専門的知識が求められるようになりました。

外来診療や検査・治療が円滑に進むようスタッフ全員で協力し、造影検査実技勉強会等の実践に役立つ勉強会の実施や他部署との連携を図り、継続看護を意識した取り組みを行いました。

【スタッフ】

看護師長：辻崎 小百合

副看護師長：福田 純子、米加田 裕子、竹熊 理恵、豊福 貴子

看護師：22名 非常勤看護師：11名 非常勤准看護師：4名

ケアワーカー：1名

【外来目標】

1. 看護の質の向上を図る

- ① 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
勉強会・実技指導の実施

② ケアに見える看護記録の充実

外来看護記録の充実・クリティカルパスの作成

2. 医療チームの一員として他部門と連携し、経営効果を考慮した看護が提供できる

① 看護業務の改善と質の標準化

問題解決の取り組み・他部署との連携

【今後の課題・展望】

- ・待ち時間を短くし、効率よい診療や検査を行えるよう業務改善を行う
- ・看護の質の向上を図るため、勉強会の継続
- ・病棟や他部署との連携を大切にし、継続看護(外来看護記録)の充実を図る

2 階 病 棟

【病棟の概要】

病床数：40床 HCU：6床

診療科：外科、泌尿器科、婦人科

【平成 29 年度総括】

当病棟は、外科・泌尿器科・婦人科の混合病棟であり、救急外来・HCUも担当しています。急性期看護・周術期看護と患者さまの状態に応じた看護が提供できるよう、医師を講師とした疾患についての勉強会や、教育委員を中心とした BLS の勉強会を行うなど、知識・技術の向上に努めました。救急外来や HCU で、病棟では経験できないような処置などがある場合なども、スタッフ間で情報を共有し経験することができました。また、業務マニュアルやクリティカルパスの作成・改定を行ない統一したケアが行えるよう努めました。

【平成 29 年度入退院状況】

| | 延べ入院患者数 | 新入院患者数 | 転入患者数 | 退院患者数 | 転出患者数 | 平均在院日数 | 病床利用率 |
|------|---------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 2階病棟 | 11,193人 | 956人 | 50人 | 901人 | 105人 | 11.2日 | 76.7% |
| HCU | 230人 | 27人 | 17人 | 10人 | 34人 | 5.3日 | 10.5% |

【平成 29 年度 2 階病棟入院患者手術件数】

| | 全身麻酔 | 腰椎麻酔 | 局所麻酔 | 合計 |
|------|------|------|------|-----|
| 外科 | 220 | 3 | 1 | 224 |
| 泌尿器科 | 35 | 25 | | 60 |
| 婦人科 | 63 | 2 | | 65 |

【スタッフ】

看護師長：矢野 悦子(認定看護管理ファーストレベル)

副看護師長：江藤 千鶴 堤 麻希

看護師：29名 准看護師：3名 非常勤ケアワーカー：5名

【病棟目標】

1. 看護の質の向上を図る
 - ① 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
 - ② ケアの見える看護記録の充実
2. 安心・安全で信頼される看護を実践する
 - ① ベッドサイドケアの充実

3. 医療チームの一員として他部門と連携し、経営効果を考慮した看護が提供できる

- ① 看護業務の改善と質の標準化
- ② 入院前から効果的な退院支援を行ない継続看護の充実を図る

【今後の課題・展望】

- ・救急外来・HCU に対応できる看護師の育成
- ・新人教育・リーダー教育に力をいれ、看護の質の向上に努める
- ・環境整備を行ない、患者さまの過ごしやすい入院環境を整える

3 階 病 棟

【病棟の概要】

病床数：50床(感染症病床4症)

診療科：一般内科、緩和ケア内科、呼吸器内科、総合診療科、循環器内科、
消化器内科、代謝内科

【平成29年度入退院状況】

| | 延べ入院 患者数 | 新入院患 者数 | 転入 患者数 | 退院 患者数 | 転出 患者数 | 平均在院 日数 | 病床利用 率 |
|------|-------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| 3階病棟 | 15,159人 | 964人 | 76人 | 926人 | 116人 | 14.6日 | 83.1% |

【種別患者数】

| | | | |
|------------|------------|------------|----------|
| 癌・良性腫瘍 | 消化管疾患 | 肺疾患 | 心不全 |
| 159(17.2%) | 257(27.8%) | 163(17.6%) | 71(7.7%) |

【スタッフ】

看護師長：米加田美和(認定看護管理セカンドレベル)

副看護師長：山口 さとみ 福山 留美

看護師：24名 准看護師：4名 非常勤ケアワーカー：6名

【病棟目標】

- ①新人教育の充実
- ②看護必要度と連動した記録
- ③ウォーキングカンファレンスの充実
- ④看護業務改善:薬剤業務の見直し
- ⑤退院支援の充実

3階病棟は、内科疾患全般の入院を受け入れています。消化器疾患の入院が半数をしめますが、内視鏡検査・処置のほかに人工呼吸器管理や重症管理、心臓カテーテル検査・治療、化学療法など幅広い治療も行われています。そのため、業務改善と患者さまの自立を促す目的で、薬剤科と連携し、内服の自己管理アセスメントシートを作成、患者指導を行いました。また、退院支援として、毎月1例を目標に退院に向けたケアカンファレンスをしたことは、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を認識する機会となったと考えます。

昨年からは開始したウォーキングカンファレンスを継続することで、情報共有やインシデントの減少に努めました。また、看護記録の充実として、看護必要度の適正な評価ができるように記録監査を続け、今後もケアの見える看護記録を記載できるよう取り組みたいと考えます。

【今後の課題・展望】

- ・3階病棟の役割を認識し、看護の質の向上を図る
- ・業務改善に向けた取り組み

4 階 病 棟

【病棟の概要】

病床数：54床

診療科：整形外科、眼科

【平成 29 年度総括】

当病棟では整形外科医師 4 名、眼科医師 1 名、看護スタッフ(ケアワーカー含む)25 名で、急性期医療対応しています。超高齢化となり 90 歳代の骨折の手術も希でなく、癌や心疾患などの重症な既往の症例もあります。そこで、他科と協力し患者さまらしい生活に戻られるよう医療・看護を行っています。また、老老介護や独居生活の自宅退院困難な方々が増加していますが、地域医療連携室と共に地域包括ケア病棟や地域の医療・介護施設と連携した病棟運営を行いました。

【平成 29 年度入退院状況】

| | 延べ入院 患者数 | 新入院患 者数 | 転入 患者数 | 退院 患者数 | 転出 患者数 | 平均在院 日数 | 病床利用 率 |
|-------|-------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| 4 階病棟 | 16,044 人 | 866 人 | 21 人 | 603 人 | 291 人 | 18.1 日 | 81.4% |

【平成 29 年度 4 階病棟入院患者手術件数】

| | 人工骨頭・ 人工関節置換術 | 骨接合術 | 緊急手術 | 整形手術合計 | 眼科手術 |
|-----|------------------|-------|-------|--------|--------|
| 合計 | 52 例 | 100 例 | 18 例 | 381 例 | 366 例 |
| 月平均 | 4.3 例 | 8.3 例 | 1.5 例 | 31.7 例 | 30.5 例 |

【スタッフ】

看護師長：請野 律(糖尿病療養指導士)

副看護師長：松本 明美 福田 和子

看護師：29名 准看護師：3名 非常勤ケアワーカー：5名

【病棟目標】

- 看護の質の向上
 - 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
 - ケアの見える看護記録の充実
- 医療チームの一員として他部門と連携し、経営効果を考慮した看護が提供できる
 - 効果的な退院支援を行い継続看護の充実を図る

【今後の課題・展望】

新人看護師・中途採用看護師の教育体制の充実をはじめ、退院支援を含めた専門性のある看護師の教育を行う。また、医師やコメディカルスタッフとチームでの活動の充実を図る。

5 階 病 棟

【病棟の概要】

病床数：38床（地域包括ケア病棟）

診療科：産婦人科、整形外科、泌尿器科、外科、内科の混合病棟

【平成 29 年度総括】

地域包括ケア病棟の運用になり3年が経過しました。急性期治療を経過し病状が安定した患者さまに対して、自宅や介護施設への復帰に向け支援を行っています。退院先の住宅環境を把握し、患者さまに合った指導や支援・調整を看護師・リハビリ技士・MSW が協力して実施しています。住み慣れた地域でその人らしい暮らしを続けられるように、担当者が自宅訪問し住宅環境の確認をしたり、退院後に利用されるサービス担当者との情報共有・調整を行い、ご家族さまの満足を得られるように努力しています。

助産師の活動としては、外来における妊婦健診、両親学級、周産期と入院以外の期間にも関わりを持ち、患者さまに寄り添った看護の提供を心がけています。又、周辺の学校へ性教育の講師派遣を行いました。平成 29 年度は 6 件の中学校に命の教育に赴きました。山鹿市の子育て支援プレパパママ教室(年 3 回)、子育てサポーター育成講習会にも協力しています。院内に限らず在宅支援・母児支援等、地域に貢献できるようにスタッフ一同活動しています。

【平成 29 年度入退院状況】

| | 延べ入院患者数 | 新入院患者数 | 転入患者数 | 退院患者数 | 転出患者数 | 平均在院日数 | 病床利用率 |
|-------|---------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 5 階病棟 | 9,321 人 | 117 人 | 326 人 | 434 人 | 5 人 | 21.2 日 | 67.2% |

【分娩数】

| | 分娩数 | 経膈分娩 | 帝王切開 |
|-------|------|------|------|
| 5 階病棟 | 57 例 | 42 例 | 15 例 |

【スタッフ】

看護師長：原田 靖代(認定看護管理セカンドレベル)

副看護師長：杉本 登美代(助産師) 吉里 美智代

看護師：13名(うち非常勤1名) 助産師：6名 非常勤ケアワーカー：3名

【病棟目標】

1. 学習会を活用し、臨床現場に対応できる知識・技術の向上を図る
2. 記録方法を統一し、看護記録の充実を図る(退院支援や看護実践、ケアの見える看護記録)
3. ベットサイドケアを充実し、安全な環境を提供し信頼される看護を実践する

4. ご家族さまに合った退院支援を行い、継続看護の充実を図る

【今後の課題・展望】

- ・院内外の多職種協力支援を強化し、地域包括ケア病棟における関わりを充実する
- ・混合病棟として様々な診療科の疾患に対応できる知識・ケアの向上と協力

緩和ケア病棟

【病棟の概要】

病床数：13床(全室個室)

診療科(平成29年度の入院患者)：緩和ケア内科、内科、外科、泌尿器科

【平成29年度総括】

緩和ケア病棟に入院される患者さまは、当院や他のがん拠点病院にて積極的抗癌治療を終えて緩和治療のみへ移行された方や、当院の緩和ケア外来・訪問看護でフォローしていたが、在宅療養困難となられて入院された方がほとんどです。症状緩和を行い、患者さまとご家族さまが心から癒やせる場の提供やケアを行えるよう、勉強会や院外研修参加を通し専門的知識の向上に努めました。日々患者カンファレンスを行い、看護を行っていましたが、看護計画の修正にまで至っていないこともあり、定期的に看護計画の評価修正が行えるよう取り組みました。また、安全・安心な看護を提供するため、ヒヤリ・ハット報告書の提出率アップに取り組み、スタッフ間で情報共有し、医療事故に対する意識の向上に努めました。

緩和ケアについての啓発活動の取り組みとして、10月に行われた山鹿市民医療センター市民公開講座の会場で緩和ケアのブースを出展しました。

【平成29年度入退院状況等】

| | 延べ入院 患者数 | 新入院 患者数 | 転入 患者数 | 退院 患者数 | 転出 患者数 | 平均在 院日数 | 病床 利用率 |
|--------|-------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| 緩和ケア病棟 | 3,365人 | 47人 | 61人 | 109人 | 0人 | 31.1日 | 70.9% |

【スタッフ】

看護師長：堤 里美(認定看護管理者セカンドレベル)

副看護師長：木村 まり(がん化学療法看護 認定看護師)

看護師：16名 (うち2名非常勤) 非常勤ケアワーカー：3名

【病棟目標】

1. 勉強会を活用しスタッフの専門的知識の向上を図り患者ケアに生かすことができる
2. 定期的な看護計画の評価修正を行う
3. ヒヤリ・ハット報告書の提出率アップを図り、スタッフ間で共有し安全・安心な看護を提供する
4. 緩和ケアの啓発活動

【今後の課題・展望】

- ・緩和ケア病棟としてより専門的なケアの提供のために知識の向上を図る
- ・時期を逃さない退院支援
- ・緩和ケアについて啓蒙活動の継続

手術室・中央材料室

【平成 29 年度総括】

手術を受ける患者さまは、高齢化が進み、麻酔や手術に対するリスクが高くなっています。手術は、最新の機材を使用し、高度な手術が行われるようになりました。患者さまへ安心して安全な手術室看護が提供出来るようにスタッフ全員で努力をしています。今年度は、術前訪問についての論文を九州周術期看護学会で発表しました。また、人体に有害とされているパウダー付き手袋廃止に取り組み手術室の手袋をすべて変更しました。

平成 27 年から肝臓の手術が開始され熊本大学医学部附属病院の手術キットを使用していましたが、本年度から当センター用の手術キットを作成することができました。

【手術件数】 ※硬膜下麻酔・全身麻酔・脊椎麻酔併用

| | 外科 | 整形外科 | 産婦人科 | 泌尿器科 | 眼科 | 合計 |
|-------|-----|------|------|------|-----|-------|
| 全身麻酔 | 220 | 318 | 63 | 35 | 1 | 637 |
| 硬膜下麻酔 | 92 | 15 | 43 | 0 | 0 | 150 |
| 脊椎麻酔 | 3 | 11 | 2 | 25 | 0 | 41 |
| 局所麻酔 | 1 | 54 | 0 | 0 | 365 | 420 |
| 合計 | 224 | 383 | 65 | 60 | 366 | 1,098 |

【スタッフ】

看護師長：宮園 清子

副看護師長：福山 留美

看護師：8名 准看護師：1名 非常勤ケアワーカー：1名(第2種滅菌技師)

【手術室・中央材料室目標】

- 看護の質の向上を図る
 - ① 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
 - ② ケアの見える看護記録の充実
 - ③ 安心・安全で信頼される看護を実践する
2. 医療チームの一員として他部門と連携し経営効果を考慮した看護を提供する
 - ① 院内連携の強化

【今後の課題・展望】

- ・人材育成に取り組み手術の技術の向上を図る
- ・材料や方法を見直し業務の効率化を図る

緩和ケアチーム

【診療内容と現状】

平成 16 年 4 月に緩和ケアチームを発足し、がん患者さまに対する身体的・精神的苦痛の緩和を行うことを目的に、症状コントロールが困難な症例(主治医、担当看護師から依頼された症例)に対し、組織横断的に活動しています。

平成 24 年 4 月に緩和ケア病棟が新設されたため、緩和ケア病棟に入院されている患者さまのカンファレンスと回診も同時に行っています。

【スタッフ】

医師：2名

緩和ケア認定看護師：1名 リンクナース：8名(各病棟及び外来)

がん薬物療法認定薬剤師：1名 管理栄養士：1名 社会福祉士：1名

理学療法士：2名 作業療法士：2名

【臨床業務内訳】

1. 毎週水曜日 13:00～のカンファレンス・回診・コンサルテーション活動を実施

対象患者報告数：延べ 1,031 人 回診者数：延べ 539 人

2. 鹿本地域緩和ケア研究会の開催(年 2 回実施)

5 月 23 日：緩和ケア研究会総会

特別講演：「失敗して、悩んで…そして学んだ～高齢者を支える緩和ケアのこれから～」

講師：介護老人保健施設ケアビレッジ箱根崎

施設長：小林秀正先生

*参加人数 99 名

11 月 24 日：症例発表会(4 題)

山鹿中央病院：田中真知子氏「食欲不振時の当院での対応」

きらきら薬局：逆瀬川剛氏「お薬継続使用あるある」

三森病院：大淵夕子氏「終末期患者の自宅復帰に向けての看護」

植木病院：森川朋恵氏「当院における徐放性オピオイド

鎮痛薬によるオピオイド導入症例の検討」

*参加人数 68 名

3. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会への参加

*医師:1 名、薬剤師 1 名、看護師 2 名

【今後の課題・展望】

1. 院内および地域における緩和医療のさらなる普及
2. 一般病棟の患者さまへの回診の充実
3. 緩和ケアチームのスタッフ育成
4. 時期を逃さない退院支援

褥瘡対策チーム

【平成 29 年度総括】

チーム活動として、褥瘡保有者及び褥瘡危険因子の高い患者さまに対する適切な評価と、専任医師と褥瘡経験看護師による定期的な回診を行ない、適切な治療の提供と予防介入に努めています。また院内褥瘡の発生を減少させるため、チーム員及びスタッフの知識・技術の向上を図り、回診参加や研修を通しアセスメント能力を習得できるよう支援してきました。平成 28 年 12 月に病院機能評価を受審し、褥瘡予防対策を行っている事柄を確実にカルテに記録していることが必須であることを再認識しました。リンクナースとともに記録のチェックや、スタッフへ指導を行い、評価の視点に関する資料作成や見直し、システムの変更などを行いました。今後も、リンクナース個々の知識や技術の向上に努め、病棟スタッフへの指導や褥瘡予防対策を適切に行うことができるよう支援して行きたいと思っております。

【スタッフ】

専任医師：工藤 智志

専任看護師：上村 洋美 古閑丸 由希 古家 紀世美

病棟リンクナース：伊藤 しのぶ 大坪 美香 赤星 恵美 磯田 由佳 實田 和広
松本 綾 福島 郁子

栄養士：永田 美華

薬剤師：松田 光司

【本年度の活動】

- ・毎月第 1 火曜日委員会開催にて、各病棟より褥瘡保有患者(持ち込み・院内発生)褥瘡診療計画書作成患者数報告と症例検討
- ・毎月第 2・4 木曜日 15 時から褥瘡回診
- ・研修開催：4 月 新人研修「入院フローチャートと予防介入」
- ・看護職対象研修：11 月「褥瘡の局所療法について」

| | 褥瘡診療計画書 作成数 | 褥瘡保有患者数 (持ち込み) | 褥瘡保有患者数 (院内発生) | 褥瘡回診患者数 |
|--------|----------------|-------------------|-------------------|---------|
| 2 階病棟 | 169 名 | 12 名 | 0 名 | 6 名 |
| HCU | 7 名 | 0 名 | 0 名 | 0 名 |
| 3 階病棟 | 248 名 | 25 名 | 9 名 | 63 名 |
| 緩和ケア病棟 | 67 名 | 6 名 | 0 名 | 1 名 |
| 4 階病棟 | 154 名 | 10 名 | 12 名 | 40 名 |
| 5 階病棟 | 102 名 | 0 名 | 0 名 | 6 名 |
| 合計 | 645 名 | 53 名 | 21 名 | 116 名 |

糖尿病対策委員会

【平成 29 年度総括】

平成 29 年度は、児島医師をはじめとした計 15 名のメンバーで活動を行いました。さらに日本糖尿病療養指導士 6 名(薬剤師 1 名・看護師 4 名・検査技師 1 名)に加え、平成 28 年度より発足した、熊本地域糖尿病療養指導士(CDE-Kumamoto)に、3 名の看護師が合格し糖尿病療養指導士として主に教育入院患者への療養指導の場で活動しています。

糖尿病は、生涯治療に向き合い、管理していかなければならないものです。患者さまが不安なく前向きに治療に取り組み、健康な人と変わらぬ日常生活を送られることを目標に、チーム一同自己研鑽しながら、患者さまに寄り添った療養指導が提供できるよう努めていきたいと思っております。

また次年度は、地域住民への糖尿病啓発活動や熊本地域糖尿病療養指導士(CDE-Kumamoto)についても周知・養成推進に努めていきたいと考えています。

【本年度の活動】

1. 血糖値改善セミナー

①第 18 回血糖値改善セミナー 平成 29 年 7 月 22 日(土) 参加者:11 名

内容：水分の取り方、災害時の対応、冷たい食べ物大研究

②第 19 回血糖値改善セミナー 平成 30 年 3 月 3 日(土) 参加者:13 名

内容：糖尿病と体型、糖尿病と認知症、果物について

2. 出前講座を 2 回実施しました(日本糖尿病療養指導士 1 名)

3. フットケア外来：毎週木曜日の午前中に日本糖尿病療養指導士看護師が実施

4. 本年度は日本糖尿病学会へ 2 名参加し、各施設での取り組みや講義を聴くことで、新しい知識等を得ることができました

【今後の課題・展望】

- ・3 月に開催したセミナーでは、参加者も増加し、今後の実施に当たり対象者や参加方法、実施場所などの再検討を行います。
- ・本年度は、教育入院患者数も低迷しており、フットケア外来の対象者は数名程度にとどまりました。今後教育入院でのフットケア指導の充実、外来との連携を図り、足病変の予防につなげられるよう努めます。
- ・糖尿病教育入院での療養指導の他、インスリンや血糖測定など、糖尿病罹患患者の血糖管理・療養指導についても検討し、インシデント対策、スタッフへの教育・レベルアップへの取り組みを行います。